# 屋内緑化推進協議会10周年記念総会 法人化し、次の10年へ

## みどりを日常の暮らしに取り込む



コンクール受賞者と屋内緑化推進協議会役員の皆さん

**7月2日、日比谷図書文化館（東京都千代田区）で屋内緑化推進協議会の2024年度通常総会と10周年記念大会が開催された。屋内緑化コンクール2024受賞者のプレゼンテーションや3人の講師による特別講演に参加者が聞き入った。**

一部の通常総会は会長の前田悟さん（㈱サンスイ代表取締役会長）が議長となり第1号議案から第6号議案まですべて可決された。役員改選では新たに㈲緑花技研代表取締役の藤田茂さん（2023年度理事）が副会長に、㈱フラワーオークションジャパン鉢物本部商品部観葉課課長代理の川崎修二さんが理事に就任した。

事業計画では2027年国際園芸博覧会への出展や資格制度の立ち上げ、各種イベントでの出展・PRについて話された。国際園芸博覧会では2ブース9日間の出展を計画しており、委員会でアンケートなどを実施しながら内容を相談していく。

一般社団法人への移行についても説明された。10周年を機に、組織・運営体制の安定化とさらなる活動推進を目標として12月に一般社団法人へ移行。翌年1月から入会手続きの案内を開始し、4月から会員を受け入れる予定だ。

●

二部の10周年記念大会では屋内緑化コンクール2024表彰式およびプレゼンテーションと特別講演を行った。コンクールは作品部門54点・緑の取組み部門7点の応募から、作品部門8点・緑の取組み部門2点が受賞した。受賞者はそれぞれ3分で作品・取組みについて紹介した。

特別講演では、顧問の佐分利応貴さん（経済産業省大臣官房参事）は「屋内緑化推進協議会これまでの10年、これからの10年」、千葉大学大学院園芸学研究院教授の岩崎寛さんは「ゼロ次予防の発想を取り入れた屋内緑化」、町田ひろ子アカデミー代表取締役・町田ひろ子さんは「社会的ウェルネスとストレスアナリスト資格」をテーマに講演した。

●

大会全体を通して植物の効用やそれをどう生かすかが話された。前田さんは「みどりを暮らしの中に取り入れ、必需品にしていかなければならない」と語った。

（グリーン情報　田中波香）

10周年記念総会で配布された記念誌。屋内緑化推進協議会の会報1～会報9までが収められている。各セミナーやコンクールの内容が詳細に確認でき、これまでのあゆみを振り返るのに最適な1冊




ウェブサイトはこちら▶

## 屋内緑化コンクール2024受賞作品・取組み

### 作品部門

一般社団法人**日本インドア・グリーン協会理事長賞**
park!
【㈱TBSテレビ、㈱パーク・コーポレーションparkERs】

公益社団法人**日本家庭園芸普及協会会長賞**
イオンモール豊川
【㈱プラネット】

一般財団法人**日本花普及センター会長賞**
アーバンネット仙台中央ビル 室内緑化デザイン
【エヌ・ティ・ティ都市開発㈱、鹿島建設㈱、㈱パーク・コーポレーションparkERs】

一般社団法人**日本ハンギングバスケット協会理事長賞**
東急不動産BRANZギャラリー 表参道
【東急不動産㈱、㈱環境計画研究所、㈱日比谷花壇】

**屋内緑化推進協議会会長賞**
王子ホールディングス株式会社 本社1階エントランス
【王子ホールディングス㈱、㈱グリーバル】

**屋内緑化推進協議会努力賞**
0様邸
【㈱COTOHA】

そらやLandscape　ふくやま本通り店
【そらやLandscape／㈲モリタ】

佐藤園芸 SATO GARDEN
【㈱佐藤園芸、㈱プラネット】

### 緑の取組み部門

**農林水産省農産局長賞**
イオンモール豊川-植物好きな近隣住民による植栽管理
【㈱プラネット】

**屋内緑化推進協議会会長賞**
社内からはじまる、みどりと繋がろう活動
【㈱安井建築設計事務所 東京事務所】

作品部門

（一社）日本インドア・グリーン協会理事長賞

# park!

株式会社TBSテレビ
株式会社パーク・コーポレーション
parkERs

## ■受賞理由

本社オフィス12階のスペース全体を、食事、コミュニケーション、リフレッシュスのペースとして、誰もが一息つける空間となるよう計画した。公園のように自由に人が集い、社員も、来訪のお客さまも24時間自由に使える、オフィスの憩いの場になるようにした。植栽帯と一体になった曲線のコルク製ベンチは、一人でもグループでも、ベンチの好きな場所に腰をかけることができる。多様な樹々や葉が幾重にも重なり、枝は通路に伸びて木々の下を歩く楽しさを感じさせる。傾斜をつけた植栽帯は、室内空間でありながら大地とのつながりを感じさせる。ベンチには水が湧き上がる水盤があり、ゆらぐ水面と水音が自然なコミュニケーションの誘発も促す。外からは木々がパティーション代わりの役割を担っている。
インドアであることを忘れる空間つくりはこれからのインドアグリーンの方向を示唆するとして選ばれました。

## ■作品の概要

東京都港区赤坂にある株式会社TBSホールディングスの本社オフィス。12階のスペース全体が、食事スペースとして、コミュニケーションスペースとして、リフレッシュスペースとして、誰もがいつでもほっと一息つける空間となるようリニューアルしました。
「PARK!」がコンセプトのフリースペースを、まさに公園のように自由に人が集い、社員も、来訪のお客さまも24時間自由に使える、都会のオフィスの憩いの場になるようデザインしました。
人は、何も考えずぼーっとしている時に、脳が活発に働き記憶の断片をつなぎ合わせていて、それが思わぬ「ひらめき」を生み出すと考えられています。わたしたちは、この無意識下の中で動いている脳の状態（＝デフォルト・モード・ネットワーク）に注目し、公園のように様々な人が集い、自然の心地よさや水音に包まれながら、ぼーっと過ごせる心穏やかなひとときが生まれる空間を創りました。
ニューヨークにある都市型公園の「ブライアント・パーク」のように、緑で緩やかに遮りながら奥にいる人が可視化できるデザインにすることで、賑わいを感じながらもパーソナルな時間を過ごせるよう植物を配置しております。

作品のアピール点

大きくうねる曲線が印象的な、植栽帯と一体になったコルクのベンチ什器。一人でもグループでも、広々としたベンチの好きな場所に腰をかけ、束の間のひとときを過ごすことができます。多様な樹々や葉が幾重にも重なり、自然なレイヤーがつくられることで、公園のような風景を作り出しています。また樹木は通路に伸びていくようにレイアウトし、公園の並木道のようなイメージで、木々の下を歩く楽しさを感じさせます。

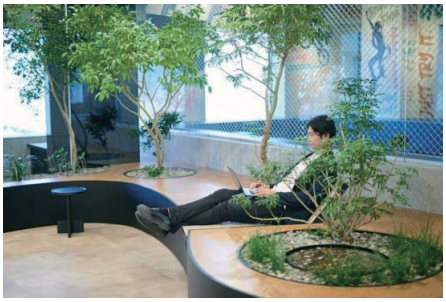






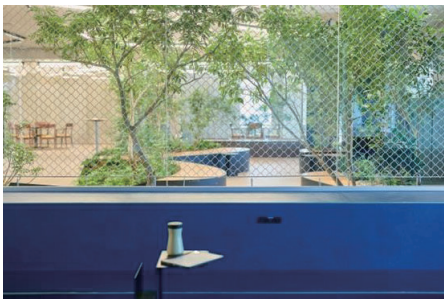
床から立ち上がるように、傾斜をつけてデザインされた植栽帯は、遠目に見ると丘のような風景となり、室内空間でありながら地面とのつながりを感じさせる構成としています。10種類以上の植物を、同種がつながるようにグルーピングし植え込むことで、互いを引き立て合うコーディネートに。ベンチには水が湧き上がる水盤が二箇所にあり、たえずゆらぐ水面にぼんやりと目を奪われ、心を落ち着ける優しい水音が周囲の音を遠ざけていきます。また空間に響く水音は、自然なコミュニケーションの誘発も促します。





フロアの一角には、スポーツの試合のように、白熱した議論を生み出す場として、バスケットコートをモチーフにした空間を設けました。壁一面のグラフィックアートに、フェンスやネオンサインを合わせ構成することで、都会の街角にたたずむバスケットコートを表現しています。会議室越しから外の緑が見えることで、会議中も無意識下で心地よさやストレス軽減を促すようデザインしております。また、外からは木々がパティーション代わりの役割を担っております。





作品部門

（公社）日本家庭園芸普及協会会長賞

# イオンモール豊川

株式会社 プラネット

## ■受賞理由

ショッピングモール内の大型植栽、壁面緑化、プランター緑化、造作家具プランターなどの屋内緑化。レストスペースとセットで植栽が効果的に計画・配置され、どこを歩いていても植栽が目に入る緑豊かな施設となっている。全植栽を施工性や環境性の高いハイドロカルチャーシステムとしており、植物の根を健全に生育させる植込み材として、レカトン、パフカルチップ、シリカソイルの3つの素材を混ぜたオリジナルの特殊な培地を使用している。バイオフォリックデザインは植物が活力を維持しその力を発揮してこそ有効であるが、設計協力、施工、メンテナンスまでの一貫管理で施工1年で植物は美しく旺盛に生育している。ハイドロカルチャーシステムは家庭においても簡易な管理で良好な生育をしめすが、培地の工夫でより良好な生育を示していることから選ばれました。

## ■作品の概要

ショッピングモール内の大型植栽、壁面緑化、プランター緑化、造作家具プランターなどの屋内緑化。数あるショッピングモールの中でも通路が広く共有部分のレストスペースが多く配置され、来場されたお客様が居心地良く長い間滞在できる空間を目指して計画されている。その一環としてレストスペースとセットで植栽が効果的に計画・配置され、どこを歩いていても植栽が目に入る緑豊かな施設となっている。

オープンして約1年、施設内は小さな子供連れの家族などで賑わいをみせ、買い物以外でも近隣地域の憩いの場としての活躍を見せているが、各所に配置された自然な木立を思わせる植栽デザインのレストスペースで、多くの方が心地よく休憩を取る様子が見られ、広大で無機質なモール内のデザイン性、快適性向上に貢献した、ショッピングセンター内のバイオフォリックデザインとなっている。

## 作品のアピール点

**【①緑化技術--特殊培地によるハイドロカルチャーシステム】**

全植栽を施工性や環境性の高いハイドロカルチャーシステムを使用。軽量工法であるため荷重制限のある2階フロアでも樹高4mクラスの高木植栽を可能としている。また壁面緑化を含め植栽はすべて底面に水を溜め循環利用する「自動潅水システム」を取り入れ、メンテナンスの軽減や必要最小限の水利用等、ハイドロカルチャーならではのエコシステムとなっている。

また特記する点として、今回はより植物の根を健全に生育させる植込み材として、レカトン、パフカルチップ、シリカソイルの3つの素材を混ぜたオリジナルの特殊な培地を使用。元気な根が増えると、葉にある気孔の蒸散要求に応じて水分を旺盛に送ることが出来るため、植物本来の自然調整機能（蒸散力、空気清浄力など）を高めることが出来き、お客様に居心地の良い空間を提供につながる。

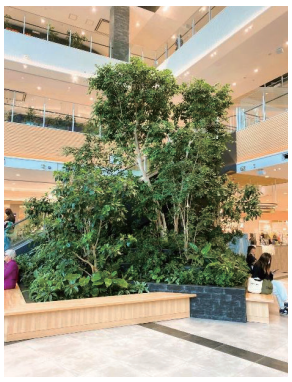
**【②高いデザイン性--建築・内装設計との協同/自社植物の使用/メンテナンスまでの一貫性】**

計画の段階でゼネコンとの打合わせを重ね、一次給水、一次電源位置を細かく指定し、目立たないが操作しやすい位置に設置を可能とするなどデザインや維持管理の向上につながっている。内装デザインの家具一体型植栽は、適正な植栽配置と休憩に植物の癒しを活用する非常に有効な手段となっている。自社高木温室で育てた6mクラスのハイドロカルチャー高木等を植栽配置し（下草を含め自社ハイドロカルチャー苗使用）、プロによる高い植栽デザインで観葉植物では出しにくい自然な木立の雰囲気を演出。バイオフォリックデザインは植物が活力を維持しその力を発揮してこそ有効なものだが、設計協力、施工、メンテナンスまでの一貫管理で施工1年でより植物も美しく生育したバイオフォリックデザインとなっている。



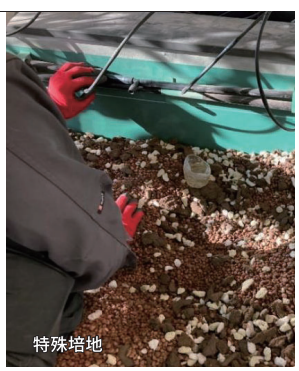
6mのベンジャミナを中心とした エントランス大型植栽


家具との一体感レストスペース植栽





フードコート壁面緑化 プランター植栽


特殊培地


半屋外スペース（屋内緑化との一体感）

## 作品部門

（一財）日本花普及センター会長賞

# アーバンネット仙台中央ビル 室内緑化デザイン

エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社
鹿島建設株式会社
株式会社パーク・コーポレーション parkERs

### ■受賞理由

ビジネスパーソン、起業家、研究者、学生、そして地域の方々など様々な想いを持った人々が集い、イノベーションを生み出す場としてのオフィスビルである。テラスや吹き抜けのある開放感あふれるワークプレイスとして大胆に緑化を施したコワーキングスペースは、街路樹や屋外テラスの緑量とのバランスを考慮し、緑と人の距離感を丁寧に意識した居心地の良い空間を演出している。他の空間も樹木を多く取り入れ、移動可能な什器を配置して企業、スタートアップ、地域の方々の様々なイベントや活動に対応が可能な空間とした。地球環境への取り組みとして、CASBEE Sランクの取得に加え、オフィスエリアにおいてはBEI(基準一次エネルギー消費量に対する設計一次エネルギー消費)0.50を達成による「ZEB Ready」認証を取得、杜の都「仙台」にふさわしい緑豊かな環境を創出した。
今後屋内緑化を建築の計画段階から計画してゆく流れを示すものとして選ばれました。

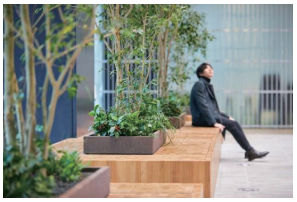
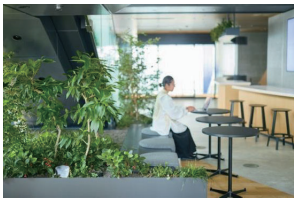
### ■作品の概要

「アーバンネット仙台中央ビル」は、『未来の仙台をつくる共創・賑わいの拠点に』をコンセプトに、ビジネスパーソン、起業家、研究者、学生、そして地域の方々など様々な想いを持った人々が集い、イノベーションを生み出す場として開発されたオフィスビルです。また、経済や交流の中心となる仙台市都心部の機能強化、老朽建築物の建て替えなどの課題にもNTTグループの資産の有効活用を通じて対応しています。それら背景の中、1Fイノベーションスペース、2Fのコワーキングスペース、3Fのワーカーズラウンジにおいては、都市間競争力の強化促進、働く場所として選ばれる環境創出、また杜の都「仙台」を最大限に表現することを目的に、室内緑化を計画しています。

## 作品のアピール点

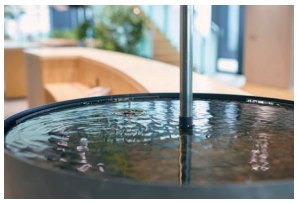
テラスや吹き抜けのある開放感あふれるワークプレイスとして大胆に緑化を施したコワーキングスペースは、街路樹や屋外テラスの緑量とのバランスを考慮し、緑と人の距離感を丁寧に意識した居心地の良い空間を演出。気軽なドロップイン利用者も想定しながらも、地域の情報収集を兼ねたワークやコミュニティマネージャー等への相談の場、ここで知り合った仲間とブレインストーミングをする場等、事業の成長やネットワークづくりにも活用できるような空間デザインとしました。イノベーションスペースやワーカーズラウンジにも樹木を多く取り入れ、また移動可能な什器を配置して可変性をもたせ、企業、スタートアップ、地域の方々の様々なイベントや活動に対応が可能な空間としました。

地球環境への取り組みとして、CASBEE Sランクの取得に加え、オフィスエリアにおいてはBEI(基準一次エネルギー消費量に対する設計一次エネルギー消費)0.50を達成による「ZEB Ready」認証を取得、杜の都「仙台」にふさわしい緑豊かな環境を創出しました。オフィスワーカーや地域の人々に安らぎを提供できるよう内装の一部には地元の木材を利用しながら、地層を表現した左官壁や石材を使った樹木名サイン、木目をモチーフにしたクリアパーテーション、実際の水が循環式で波紋や水音を演出する特殊演出什器など、細部まで緑化空間を体感できるデザインコーディネートが多岐に施されています。

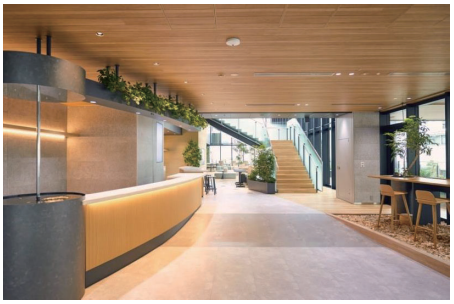












**緑化システム**　水点滴循環機能付き特殊什器、プランター付きワークテーブル、底面灌水機能付きプランターやベンチ等々

## 作品部門

（一社）日本ハンギングバスケット協会理事長賞

# 東急不動産 BRANZ ギャラリー 表参道

東急不動産株式会社
株式会社環境計画研究所
株式会社日比谷花壇

### ■受賞理由

「環境にも人にもやさしいウェルビーイングな暮らし」を体感してもらうことを目的に、緑・水・石・土・光といった自然要素を積極的に取り入れ、バイオフィリックデザインを主軸とした。エントランスホールには、高さ5.0mのシンボルツリーや2層吹抜の天井まで届く壁面緑化などの豊富な植栽計画に加え、景石・砂利といった自然物や、吹き抜けの高低差を利用した水景により、環境に溶け込みながら「心地良さ」「美しさ」を五感に訴えかける施設としている。　施設周辺は、複層構造の照葉樹林帯であったとされており、屋内・屋外共に全ての樹種を在来種から選定・構成している。高木は1年以上光順化させた個体を採用しており、高木以外はハイドロカルチャーとして土を屋内に持ち込まない計画とした。照度分布図による検証を元に、植物育成用LEDライト「Well-light」を採用した。大きな面積を占める垂直の壁面緑化は水平面を他の用途に使用でき、緑量を確保する有効な手法として」選ばれました。

### ■作品の概要

本施設は、“GREEN LIFE STYLE”を提案するデベロッパーによるマンションギャラリーです。「環境にも人にもやさしいウェルビーイングな暮らし」をゲストに体感してもらうことを目的に、緑・水・石・土・光といった自然要素を積極的に取り入れており、バイオフィリックデザインを主軸と　した、次世代の暮らしを体現するマンションギャラリーを目指しました。
外構から起伏した植栽帯を施設の中まで入り込ませるような連続性のあるデザインは、建物と自然をシームレスに繋げ、屋内に居ながら外(森)を散策するかのような特別な空間を創出しています。　同時に、地域と調和するサステナブルな緑空間を構築するため、屋内・屋外でそれぞれ周辺の植生域を踏まえた植栽計画とすることを重要視しました。
エントランスホールには自然光が溢れ、高さ5.0mのシンボルツリーや2層吹抜の天井まで届く 壁面緑化などの豊富な植栽計画に加え、景石・砂利といった自然物や、吹き抜けの高低差を利用した　水景により、環境に溶け込みながら「心地良さ」「美しさ」を五感に訴えかける施設としています。

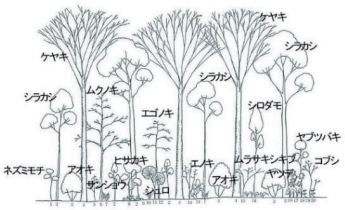
「環境先進」を掲げるデベロッパーが、建物と自然を融合させた次世代の住まいを提案することで　本作品は暮らしにおいてバイオフィリックデザインを浸透させるための好事例になったといえます。

## 作品のアピール点



生物多様性に配慮したブランドコンセプトにより、植栽計画は在来種で構成している

(1) 施設周辺は、かつてカシ類やスタジイなど常緑広葉樹が優占する自然林であり、中層はアオキなどの常緑樹やつる植物、下層にはシダ類が特徴的に出現する複層構造の照葉樹林帯であったとされます。そこで本計画では、明治神宮を始めとする青山に息づく植生相観を再現すべく、屋内・屋外共に 全ての樹種を在来種から選定・構成しています。




・階層別構成種

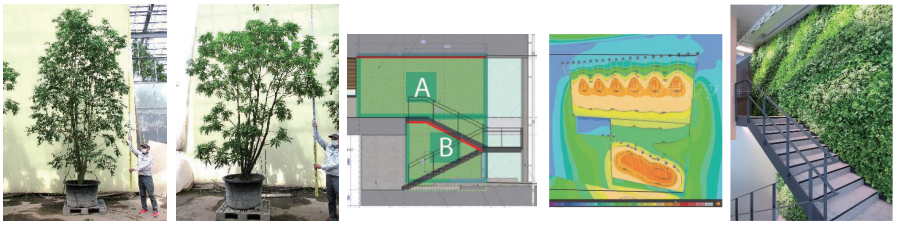
高木層　：シラカシ、ケヤキ
亜高木層：シラカシ、アラカシ、シロダモ、モチノキ、ムクノキ、エノキ、エゴノキ、コブシ、イロハモミジ
低木層　：ネズミモチ、アオキ、ヒサカキ、ヤブツバキ、ヤツデ、ナンテン、ヒイラギ、ムラサキシキブ、サンショウ
草本層　：オオバジャノヒゲ、ヤブラン、ヤブコウジ、ベニシダ、イヌワラビ、テイカカズラ、キズタ、スイカズラ

(2) シンボリックに配置する高中木（樹高5.0mシイモチ株立 及び樹高3.5mイジュ株立）は、予め1年以上自社グループの圃場で室内用に光順化させた個体を採用しており、産地直入れなど環境変化に起因する樹木への負荷低減を配慮しました。

(3)上記を除く屋内の植栽は、着工前に全てハイドロカルチャー仕様に仕立てており、土を屋内に 極力持ち込まない計画としました。水位計を使用してメンテナンスの効率化を実現しています。

(4)2層吹抜の天井高さと奥行を印象付ける壁面緑化は、midorie「花のかべ」を採用。80pot／㎡の植栽密度によって、竣工時から求められた高い完成度を実現しています。

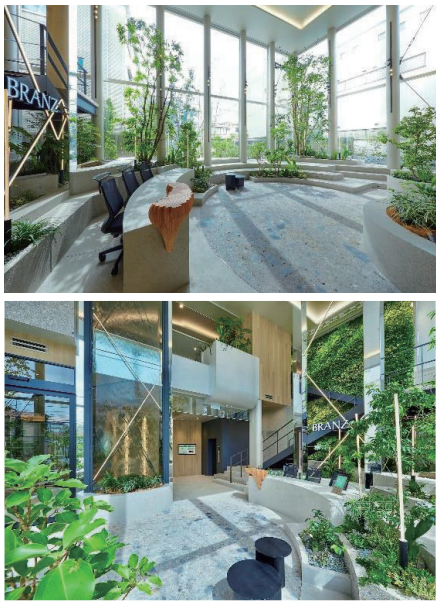
(5) 照度分布図による検証を元に、自社販売する植物育成用LEDライト「Well-light」を採用。光合成効率に優れた波長による照度環境を整備することで、その後の健全な育成と高品質の維持管理に繋げます。



●健全な育成のために、光順化した植物や植物育成用LEDライトの導入が有効

## 作品を通しての波及効果

本施設は、在来種によって構成したサステナブルな植栽計画に加えて、植物の光順化・ハイドロカルチャー・壁面緑化・照度環境の改善など、さまざまな分野の屋内緑化技術を結集させたことに より実現した、次世代型の住まいを提案するプロジェクトです。
新たな住まいに明るいイメージを膨らませるゲストが集まる　マンションギャラリーにおいて、屋内緑化を主体とした計画を　実現させたことは、バイオフィリックデザインの社会的要請度 からも大きな意義があります。建物と自然が調和する空間を体感する機会は「環境にも人にも優しいウェルビーイングな暮らし」の形をより多くの人に示し、暮らしに緑を取り入れる動きに波及していくことでしょう。そして周辺環境にも良い影響を還元 できる暮らしこそが、持続的に「ウェルビーイング」な住まいになり得るのではないかと考えています。



●自然光が降り注ぐエントランスホール

作品部門

屋内緑化推進協議会会長賞

# 王子ホールディングス株式会社 本社1階エントランス

王子ホールディングス株式会社
株式会社グリーバル

## ■受賞理由

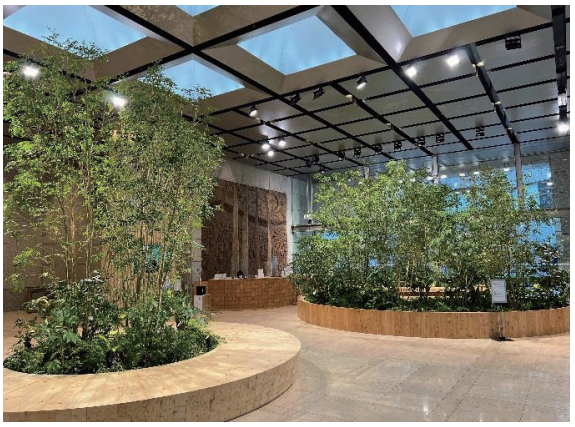
在来種の生木植栽と社有林材を使用した木製什器を効果的に配置し、日本を代表する高級商業地域である銀座に居ながら森を感じることができる空間となっている。訪れた人々に癒しを与え、コミュニケーションしやすい環境を提供します。在来種のみを用い、地被、低木も加えた植栽で癒しを感じることができる都会の森を演出している。さらに室内環境への順化と成長を促す植物育成用照明「bio-Light」を組み合わせて、オフィスビルでは最大規模となる在来種を用いた室内緑化を実現した。
在来種の生育維持において、観葉植物と比べ必要とする光の強度が高いため、補助光が必要であるだけでなく、暗さに強い植物を選択し事前に暗さに慣らす必要がある。
屋内緑化の今後の傾向として在来種の使用が求められてきていることから、このような取り組みは有意義であり選ばれました。

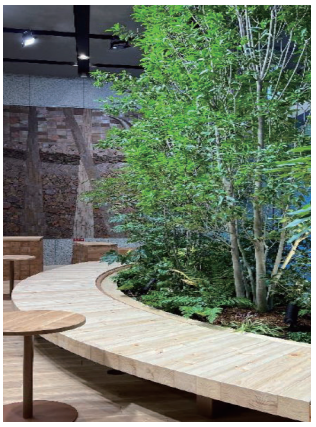
## ■作品の概要

2023 年 2 月に創業 150 周年を迎えた王子ホールディングス。森林資源と共に歩む想いを表現する為、本社 1 階エントランスをリニューアルしました。
在来種の生木植栽と王子グループが保有する北海道の社有林材をふんだんに使用した木製什器を効果的に配置し、日本を代表する高級商業地域である銀座に居ながら森を感じることができる上質な空間となっています。訪れた人々に癒しを与え、コミュニケーションしやすい環境を提供します。

## 作品のアピール点

コンセプトは「森のフィールド」。国内の民間企業では最大規模の社有林を維持・管理し、森林資源をもとに事業を展開する王子グループ様の想いを体感いただける空間を目指しました。在来種の生木植栽のみを用いて癒しを感じることができる都会の森を作り上げました。北海道の社有林から出材したトドマツやカラマツなどの針葉樹、ミズナラやカバなどの広葉樹をふんだんに使用したナチュラルな雰囲気の什器に合わせて、シダ類やアオキ、4m以上のシロダモやイジュなど多種多様な在来種を配置し森を演出しています。さらに室内環境への順化と成長を促す植物育成用照明「bio-Light」を組み合わせて、オフィスビルでは最大規模となる在来種を用いた室内緑化を実現しました。



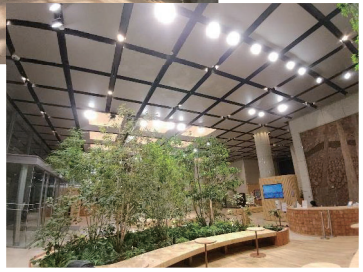


## 緑化システム

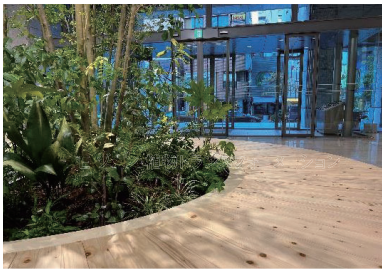
在来種の生育維持において、インドアグリーンと比べ必要とする光の強度が高いため、室内環境において補助光を整備する必要があります。今回は、植物育成用LED照明「bio-Light+」（ビオライトプラス）を設置し、植物が必要とする光量と、光合成に有効な光の波長を補っています。
その他にも、室内は屋外に比べて圧倒的に光の強さが足りないので、暗さに強い植物を選択し、事前に暗さに慣らす必要があります。暗さに強い樹種を選定した後に、弊社が保有する鹿児島県にある室内緑化用の樹木養生施設「G-lab」で順化養生を行いました。
天井には遮光ネットが貼り、一般的な生産ハウスに比べ暗い空間を作りだし、時間をかけて養生することで室内に適応した樹木を作ります。











bio-Light+ 植物育成用LED照明



作品部門

屋内緑化推進協議会努力賞

# O様邸

株式会社COTOHA

## ■受賞理由

新築の邸宅に、屋内・屋外の緑化装飾を実施した事例で、屋内は既存のインテリアに合うように樹種・鉢をスタイリングしたが、変形した大型樹形の植物を使用し、広い空間を活かした景色を作り上げている。
屋外はもプランターを使用して植栽し、花木を織りまぜ、四季を感じる庭に仕上げている。屋外のみ自動散水システムを導入し、管理の負担を少なくしている。屋内、屋外とも統一された色彩のコンテナを使用する等の配慮が見られる。
屋内は植物が生育できる環境を整え、植栽土壌は通気性を第一に考えた資材を用いいる等工夫がみられるが、審査資料にそれらの記述がなくさらなる工夫が求められ、努力賞に選ばれました。

## ■作品の概要

新築の邸宅に、屋内・屋外の緑化装飾を実施。 屋内は既存のインテリアに合うように樹種・鉢をスタイリング。また、cotohaの得意分野である変わり樹形を使用し、広い空間を活かした景色を作り上げました。 屋外はプランターを使用して植栽。花木を織りまぜ、四季を感じる庭に仕上げました。 屋外のみ自動散水システムを導入し、管理の負担を少なくしています。









## 作品部門

屋内緑化推進協議会努力賞

# そらやLandscape ふくやま本通り店

そらやLandscape / 有限会社モリタ

### ■受賞理由

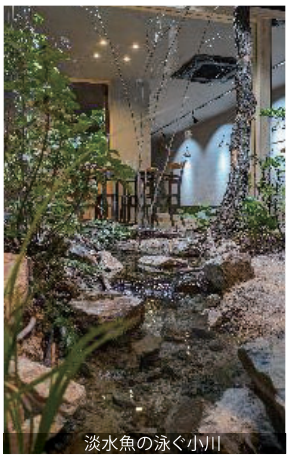
時代の流れとともに疲弊した商店街を改修し緑豊かな商店街となったが、全盛期ほどの賑わいは戻らず、商店街の中心にある一店舗（呉服店）をリノベーションした。おもて通りから順番にエントランス・フリースペース・レストランと、３つがシェアするカタチとし、通り抜けれる配置としている。フリースペースは淡水魚が泳ぐ小川の流れる森とし、森の土壌は自然環境にこだわった上で環境負荷の軽減と自然環境保全に配慮した。自然樹木を配植するだけでなく、木屑や落ち葉、枯枝を用いて土壌環境を整えている。
非常に意欲的な取り組みであり事業的にも稀有な緑化であるが、屋内に自然環境を取り入れることは難しく、経年的な推移を見る必要があり、努力賞に選ばれました。

### ■作品の概要

広島県福山市にあるふくやま本通商店街。時代の流れとともに疲弊した商店街は2016年にアーケードを撤去し緑豊かな商店街へと改修工事が行われました。しかし、それから7年経過しましたが全盛期ほどの賑わいは戻っておらず、この度その商店街の中心にある一店舗（呉服店）をリノベーションさせて頂きました。商店街の中心ということもあり、人が集う拠点のきっかけとするために間口4.5m、奥行20mの空間を弊社の事務所とレストラン（別事業者）、フリースペースの３つがシェアするカタチとしました。
おもて通りから順番にエントランス・フリースペース・レストラン・うら通りとし、通り抜けれる配置としました。昼間は事務所、夜間はレストランという時間によるシェアを行い、それぞれの客席ともなるフリースペースは１日を通してどなたでも気軽に利用できるようにしました。フリースペースは淡水魚が泳ぐ小川の流れる森とすることで自然豊かな商店街の空気感をそのまま内部に取り込み、また、普段は入口の建具を開けっ放しとすることで室内への人の誘導を促します。

## 作品のアピール点

屋内ではありますが「自然循環」を最終目標とするため、森のフリースペースの土壌は自然環境にこだわった上で環境負荷の軽減と自然環境保全に配慮しました。
屋内ということでFRP防水を施し大きな浴室を造作した中に自然環境をつくっていますが、自然樹木を配植するだけでなく、木屑や落ち葉、枯枝を用いて土壌環境を　整え、土の中にある水や空気の流れを促すことで土中の調湿効果を 図りました。
木屑は建築時の端材から、そして落ち葉や枯枝、竹は林道のボラ ンティア清掃を兼ねて得ることで 木材や落ち葉を燃やして二酸化　炭素を排出するのでなく、それらさえも自然循環させる考えです。


淡水魚の泳ぐ小川


建築廃材利用


木屑化


土壌環境整備

## 緑化システム

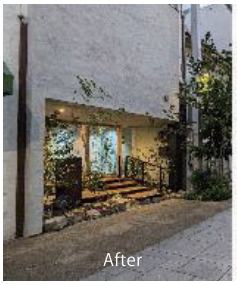
植物育成用照明器具にはBARREL社の「NEO AMATERAS LED」を採用。太陽光に含む可視光七色全てを連続性をもたせて発光し、演色評価指数はRa97。太陽光とほぼ変らない波長の光で植物を照らします。また、おもて通りからうら通りへの通気、レストラン天井裏への換気（排気）に加え、BARREL社の小型送風機「AECHMEA」を用いることで、風による根周りの強化と過度な湿気を防ぎます。


森のフリースペース


エントランス


レストランからの風景


ふくやま本通商店街


After


Before

作品部門

屋内緑化推進協議会努力賞

# 佐藤園芸
# SATO GARDEN

株式会社 佐藤園芸
株式会社プラネット

## ■受賞理由

1階は園芸店舗とワーキングスペースにもなるカフェを併設し、植物の購入、仲間と共にすごす時や、コーヒーや軽食を楽しむ時に、植物の持つバイオフィリック効果を全身で体感できる空間づくりとしている。2階は緑を感じられるレンタルスペースで、イベントやセミナーなどに活用でき、地域に根差したコミュニティスペースとして、室内緑化を促進させるような場所になることを目指している。カフェにはキッズスペースも設置し、植物に囲まれながら遊ぶことで植物への興味や関心などを持つきっかけが期待できる。
レンタルスペースは観葉植物の壁面緑化による空間で、セミナーや寄せ植え、挿し木体験会などを開催することで、緑化技術の情報や知識を発信する「緑の拠点」としての機能を果たしてる。
新たな取り組みが随所に見られ、今後取り組みの成果報告がなされることを期待して、努力賞に選ばれました。

## ■作品の概要

**当作品のテーマは「室内緑化体感型店舗」**

室内緑化を体感していただくには「自然のもの」の構造が良いと考え木造構造にしています。高気密高断熱で室内緑化と親和性の高い作りと木の温かみを感じていただける内装にし、ご来店いただいたお客様に植物の持つリラックス効果やリフレッシュ効果を最大限体感していただけるようにデザインしました。

1階は園芸店舗とワーキングスペースにもなるカフェを併設し、ハイドロカルチャー植物の購入はもちろんのこと、仲間と共にすごす時や、コーヒーや軽食を楽しむ時に、植物の持つバイオフィリック効果を全身で体感できる空間づくりとしました。

2階も緑を感じられるレンタルスペースを作り、イベントやセミナーなどに活用していただける空間として、地域に根差したコミュニティスペースとして、多くの方に室内緑化を身近なものに感じて、室内緑化を促進させるような場所になることを目指しています。

## 作品のアピール点

【カフェ】
1階のカフェにはキッズスペースも設置しています。植物に囲まれながら遊ぶことができ植物への興味や関心などを持つきっかけになる空間としても期待できます。
子育て中の外でゆっくりと時間を取れない保護者の方にもお越しいただき植物のリフレッシュ効果を感じていただけるデザインになっています。
【レンタルスペース】
ハイドロカルチャーを使用した観葉植物の壁面緑化による気持ちの良い空間で、セミナーや寄せ植え、挿し木体験会などを開催することにより、植物を身近に置くきっかけ作りや、緑化技術の情報や知識を発信する場として、広く植物の良さを感じることのできる地域の「緑の拠点」としての機能を果たしていく予定です。















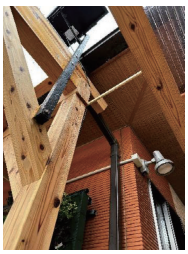
## 緑化システム

室内の壁面システムの植物は、すべてハイドロカルチャー植物を使用しています。自動灌水システムを採用し、管理のしやすさをお客様へもアピールできる狙いもあります。
外にはソーラーパネルを使用した雨水循環型壁面緑化というグリーンインフラ事業にも取り組んでいます。









農林水産省農産局長賞

# イオンモール豊川 植物好きな近隣住民による植栽管理

株式会社プラネット

## ■受賞理由

この取り組みは、植物好きな一般住民の方に、大規模商業施設内の植栽管理を担っていただいているものである。当施設は非常に多くの屋内緑化が施されており、グリーンサービス業者単独での維持管理は大変難しいため、施設の近隣にお住いの植物好きを募集し、ともに植栽維持管理に努めている。施設内植栽で剪定した植物は、処分ではなく、挿し木をして施設内の照明棚で育てる、いわゆる生産緑化を実践している。成長後は施設内植栽の補植用として再び使用することも想定している。また、一般客の方に向けて挿し木体験会も開催し、成長後の植物を体験された方に差し上げるという取り組みも実践中である。みどりと触れ合うことに楽しさを感じ、それを仕事として取り組むことで、生きがいと仕事を両立させた新しいライフワークを実現している。
新たな就業形態の提示であり、傷んだ植物の交換からその場で生育させる業態への変化を期待させることから選ばれました。

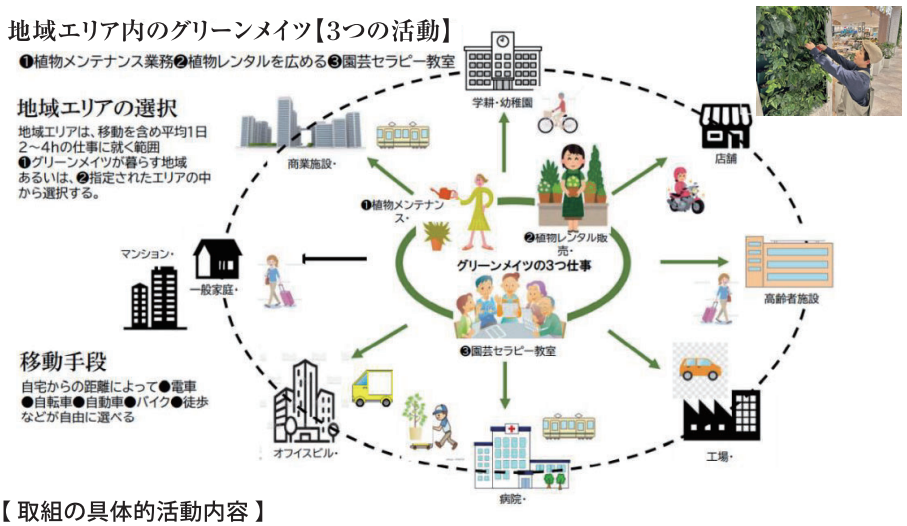
## ■取組みの概要

こちらの取り組みは、植物好きな一般住民の方に、大規模商業施設内の植栽管理を担っていただいているというものです。当施設では非常に多くの屋内緑化が施されており、グリーンサービス業者単独での維持管理は困難です。そこで、施設の近隣にお住いの植物好きの方を募集し、ともに植栽維持管理に努めております。また、施設内植栽で剪定した植物は、処分してしまうのではなく、挿し木をして施設内の照明棚で育てる、いわゆる生産緑化を実践しています。

## 取組のシステム及び具体的な活動内容

### 【 取組のシステム 】

「グリーンメイツ」。私たちは、ご自身のお住いの地域で、地域を構成する公共施設、企業、商業施設などでの植栽メンテナンスや園芸セラピー教室の講師等の仕事をしていただく方を、そのように呼んでいます。グリーンメイツには、地域住民や企業の従業員、高齢者の方、障がい者の方全てに「みどりと花のある豊かな生活」を体感してもらうために活動していただき、積極的な地域貢献を目指しています。グリーンメイツの募集は、近隣にお住まいの植物好きな方というのみで性別、年齢、植物の経験は問わず、契約形態は業務委託となります。ご自身のライフスタイルや希望に合わせて仕事を選択していただき、また、お住いの地域で新たに植栽を増やすという営業活動も可能です。この取り組みは、自社社員のみで植栽管理を行っていた従来の働き方とは異なり、まったく新しい地域社会参画型の働き方となっています。




### 【 取組の具体的活動内容 】

令和5年4月より始まった取り組みですが、当初の5名から現在は7名となっています。植物の経験がなく不安を抱かれていた方も、講習動画や勉強会、メンバー間での意見交換を通してスキルアップをし、皆さんが自信をもってメンテナンスに励んでいます。商業施設内の植栽管理ということもあり、作業をしている姿は一般客の方にも見られます。統一感のある服装、一般客の方に何か尋ねられた際の対応方法等、植栽維持に加えマナーや態度も踏まえたクオリティーの高い「魅せるメンテナンス」を目指しています。



活動が始まって１年が経ち、新たに取り組んでいることが生産緑化です。日々の植栽メンテナンスでは徒長や樹形維持のために剪定した枝葉が多く出ます。それらはなるべく処分してしまうのではなく、挿し木をして施設内に設置してある照明棚のキットで育てています。成長後は施設内植栽の補植用として再び使用することも想定しています。また一般客の方に向けて挿し木体験会も開催し、成長後の植物を体験された方に差し上げるという取り組みも実践中です。

### 【 取組の波及効果 】

グリーンメイツとして働いていただいている方には、趣味の延長として捉えている60代の女性、専業主婦で仕事から離れていたが、生活が落ち着いて新しいことを始めてみたという50代の女性、また、これまでの技術系の仕事を定年退職し、堅い業務からは異なることに挑戦してみたかったという60代の男性もいて、皆意欲的に取り組まれています。みどりと触れ合うことに楽しさを感じ、それを仕事として取り組むことで、生きがいと仕事を両立させた新しいライフワークを実現しています。





緑の取り組み部門

屋内緑化推進協議会会長賞

# 社内からはじまる、みどりと繋がろう活動

株式会社安井建築設計事務所
東京事務所

## ■受賞理由

設計提案を行う立場として植物に対する基本的な考え及び障害となる事項を取り除くべく、まずは設計者が、みどりと共存し、みどりの特性や効果を体験することで、“みどりを活かした建築空間の向上を図る設計とはなにか“をひろく考えていく取り組みである。“設計者がみどりと繋がる活動”として、「建築設計者によるバイオフィリア体験型ラボ」「ペットプランツ計画」「植物再生・再利用プロジェクト」を取り上げ、処分される植物を社員自ら再生・再利用し、社内のサスティナブル意識を向上させる取り組みを行った。緑を介した風景が日常的に広がり、さらに植物と人の関係だけでなく、社会としての取り組みを考えるところまできている。植物のある良好な環境は、人と人が繋がり、まち全体をも巻き込む、みどりと建築の調和を図る活動を行っている。
建築設計の段階から屋内・屋外を問わず緑を計画に盛り込む考えが定着することを願い選ばれました。

## ■取組みの概要

みどりが持つ力は近年再注目されており、私たち建築設計者においても、計画する上でみどりの存在は切り離せません。しかし、生き物であることの難しさや、そもそも取り掛かりが分からないという背景から、みどりを取って付けたような計画となる事が多々あります。

設計提案を行う立場としてそのような障害を取り除くべく、まずは設計者である私たち自身が、みどりと共存し、みどりの特性や効果を体験することで、“みどりを活かした建築空間の向上を図る設計とはなにか“をひろく考えていく取り組みです。ここでの実体験を通して設計された建物が人々の生活を豊かにするとともに、人々に利用されることで、まち全体を潤していくことを目標としています。

## 取組のシステム及び具体的な活動内容

### 【 取組のシステム 】

“設計者がみどりと繋がる活動”として大きく３つの取り組みを計画しています。１つ目は、昨年竣工した「建築設計者によるバイオフィリア体験型ラボ」を利用して「ミントパーティー」や「ハーブ石けんワークショップ」を行い、社員が植物に触れるきっかけを与える取り組みです。２つ目は、「ペットプランツ計画」という、自分の植物を自分の好きな場所で育てる計画です。植物を育てることで、室内での生育について実感することができます。また、育てる場所を選ぶことで、植物空間を実際にデザインでき、建築空間とみどりの親和性を学べる取り組みです。３つ目は「植物再生・再利用プロジェクト」です。普段であれば、処分される植物を社員自ら再生・再利用し、社内のサスティナブル意識を向上させる取り組みです。

### 【 取組の具体的活動内容 】

**1 イベントを通した活動**

「ミントパーティ」「石けんワークショップ」

ミントパーティーとは、社内で育成したミントを社員のみなさんに葉摘みしてもらい、その場でアイスやお酒と一緒に食べてもらうイベントです。当日は役員の方から若手まで60名余りが集まり、ミントを片手に楽しみました。また、自ら育て、食べることを通して植物に親しみやすさを感じてもらいました。
石けんワークショップでは、育てたハーブを使って石けんづくりを行いました。また、若手が上司にやり方を教えながらせっけんを作成するなど日常とは異なった社内のコミュニケーションを誘発でき、アフターコロナでの交流を活性化させました。


ミントパーティー


石けんづくり中の風景

**2 植物のある空間を社員全員で作り出す**

「ペットプランツ計画」

弊社は1月に新オフィスへ移転をしました。ここでは建物全体がバイオフィリックの実験場となります。現在はそのステップ１として、植物のある空間をみんなが気軽に作れる仕組み“ペットプランツ”を実行しています。毎日違う席に気軽に持ち運べる計画は、どこに緑があるといい空間になるのか、どの場所が自分の緑にとって適した生育環境になるのか、楽しみながら考えることができます。また、名前を書いたネームタグをつけてあげることによって、誰の子がどこにいるか分かるような仕掛けや、出張や在宅勤務の際にも置き場所が困らないようポッドステーションという専用エリアつくり、誰もが楽しめる計画としています。
植物になじみのない方でもペットプランツを気軽に始められるよう、「植物を買いに行こうワークショップ」を開催し、各回10名計3回の合計30人の方が参加しました。参加者からは「自分で買って育てる植物は愛着がわく」といった声も上がっており、日々のみどり意識の向上につながっています。また、「育ったね」など社員同士の会話のきっかけとなり、「私も今度始めてみよう」などといった声は、緑量の増加につながっています。


ポッドステーション





買いに行こうワークショップ後の風景

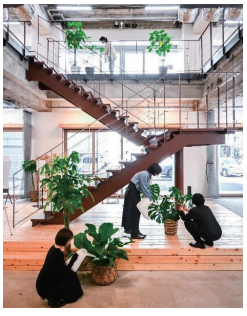
**3 植物再生・再利用プロジェクト**

「植物レスキュー」「胡蝶蘭再生プロジェクト」

新オフィスは、築60年の建物に移転しました。この建物改修に伴い、廃棄予定であったビルのエントランスの植物を回収し、もう一度育てる取り組みを行っています。環境の変化で葉が枯れてしまうなど難しい点も多くありましたが、いまでは再生し新オフィスを新たに彩ってくれています。
引っ越しのお祝いで頂いた胡蝶蘭は回収され、廃棄されることとなりますが、私たちはみどりとして再利用し、再度花を咲かせる再生計画も行っています。これらの取り組みは、みどりを再生・再利用するだけでなく、社内のサスティナブル意識を向上させています。


既存ビルにて植物レスキュー中


胡蝶蘭のbefore→after



### 【 取組の波及効果と今後の展望 】

３つの取り組みを通し、私たちは「みどりを介した空間は人と人とが繋がり、いまよりもずっといい」ということを、身をもって体験しました。みどりに無縁であった設計事務所は現在、みどりを介した風景が日常的に広がり、さらには植物と人の関係だけではなく、社会としての取り組みを考えるところまで成長しております。
植物のある良好な環境をつくるだけではなく、人と人が繋がり、まち全体をも巻き込むきっかけとなる、みどりと建築の調和を図る活動を行っていきます。



# Tlahus、そら植物園

屋内緑化推進協議会は、2024年度の研修として、6月10日、新大阪駅に集合し関西勉強会を開催した。
一行10名はガーデンライフショップ、Tlahus（トラハス）と世界と日本国中からの植物を集め生産販売している、そら植物園を視察研修。

●Tlahusの充実した花苗売り場

## ショップ Tlahus

トラハスは、兵庫県三田市学園に植木鉢専門商社のグリーンポット貿易部が21年11月に開店したガーデンライフショップで、自然と生活が密接にかかわる北欧のガーデンライフを提案する。

●

インテリアグリーンの観葉植物は多品種、サイズも大中小と揃え、植木鉢も世界から集めた多彩な種類の鉢を組み合わせ、おしゃれなインドアグリーンのある生活を提案している。外売り場の花苗も多くの量販店には並ばないような新しい品種や鉢サイズをそろえ、宿根草にも力を入れて遠方からの集客を含め、地域一番店を目指している。



●店舗内のインテリアグリーンは、ハンギングや木製什器などおしゃれな空間で多品種、サイズそろいも充実

## そら植物園

プラントハンターとして知られる西畠清順さんが社長のそら植物園は、植木産地として知られる兵庫県池田市の自然に恵まれた小高い山の中にあり、1万7千㎡という広い農場とサテライト農場で、およそ1000種類の樹種、2万株以上の植物を管理・生産している。輸入ばかりでなく輸出もしており、世界の主な輸出入取引は13か国となっている。

●

特徴は、植物の種類も非常に多いが、樹高10m近いような大きな樹木等もほとんどコンテナで生育管理されており、植物の移動がすぐにできることである。

当日は、番頭の森土樹夫さんと関谷航平さんに農場を案内していただき、最後は西畠さんを囲んで現在取り組んでいることなど最新情報のレクチャーを受けた。

そら植物園は、植物の売買及び定期管理のほかに、イベント／空間演出、設計施工なども行うなど、植物業界が、輸入商から始まり生産・流通、施工・小売りなど細分化されている中で、同社は1社ですべての業務を行い一気通貫して実現している。

（グリーン情報　山川正浩）



●高木でもほとんどがポットで管理されており、いつでも移動ができる



●西畠清純社長をはじめ、そら植物園のスタッフと意見交換



●海外の貴重な植物と一緒に記念撮影する一行



大阪のショップと大和ハウス研修施設で学ぶ

# 多様なコンセプトのみどりを視察

**バイオフィリアの認知度が向上し、屋内緑化が急速に普及しつつある。屋内緑化推進協議会はこの機を逃さぬよう、11月の「GREEN SAMITT」に引き続き、12月13日、関西で屋内緑化の勉強会を開催した。**

●植物のほかバルダリウムなど水と緑も充実したガーデンズウメキタ

**ショップ視察では、「gardens umekita（以下、ガーデンズウメキタ）」と「KEEP GREEN（以下、キープグリーン）」「ACTUS（以下、アクタス）」の3店舗を回った。**

ガーデンズウメキタは都市開発中の大阪都心で屋内緑化の新たな提案をするホームセンター・コーナン商事㈱のショップで、「水と緑をもっと身近に」をコンセプトに、植物とアクアリウムを中心とした専門店だ。商品を並べておくだけの今までのホームセンター売り場との違いは店内には専門スタッフが常駐していること。植物の育て方やアクアリウムの管理方法などを気軽に相談できる。商業施設「グラングリーン大阪」の1階にあり、店内ではほとんど植物ごとにLEDライトが多用されているのも印象的だった。

株式会社DAISHIZENの観葉ショップ、家具・雑貨と観葉のショップアクタスは、ガーデンズウメキタから徒歩数分の距離にあった。隣接しているが、ガーデンズウメキタは一般向け、キープグリーンは知識・情報を武器に販売、アクタスはインテリアと、コンセプト・切り口の違いがある。大阪駅隣接地区という一等地での熱い観葉販売が注目された。

ショップ視察の後、大和ハウスグループの研修施設「コトクリエ」（奈良県奈良市）を訪問。大和ハウスグループの基本姿勢である「共に創る。共に生きる。」（共創共生）を踏まえ、「共に学び、共に育ち、未来に向かって共に新しい価値を生み出す、未来価値共創センター」と位置付けた施設だ。

4階建てで、みどりを生かしたバイオフィリックスタジオなど多くの研修室や宿泊施設もある。屋外には風のパティオや奈良時代の作庭手法を取り入れた水景の庭「まほろばの庭」、万葉植物に彩られた「万葉の庭」なども整備し、屋内外にみどりが多用されていた。

（山川）




●「KEEP GREEN OSAKA」の前で記念写真



●LEDライトを使って屋内でも楽しめる盆栽や万年青なども展示販売



●家具・雑貨と観葉ショップ「ACTUS」。用土はハイドロカルチャー



●大和ハウスグループの研修施設「コトクリエ」の緑を生かしたバイオフィリックスタジオ